

2022年12月期 通期決算 概要

The AGC logo is displayed in a white box on the right side of the slide. It consists of the letters "AGC" in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned between the "A" and the "G".

AGC株式会社

2023年2月8日

Your Dreams, Our Challenge



2022年12月期 通期決算 概要	P.03
2022年12月期 通期業績	P.04
1. 業績のポイントと主要項目	P.05
2. セグメント別・地域別の状況	P.13
2023年通期業績見通し	P.19
付属資料	P.27

2022年12月期通期業績

前期比

売上高	20,359 億円	+3,385億円
営業利益	1,839 億円	▲222億円
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	▲32 億円	▲1,270億円

- 売上高は戦略事業の拡大や、製品販売価格の上昇、為替影響から過去最高
- 営業利益はディスプレイの大幅な需要減、原燃材料高の影響から前年比減益
- 大規模な減損損失の計上に伴い当期純損失を計上

2023年12月期通期見通し

前期比

売上高	21,500 億円	+1,141億円
営業利益	1,900 億円	+61億円

- クロールアルカリ事業が前年比で減益となる見込みだが、自動車用ガラスをはじめとする他のコア事業や戦略事業の伸長に加え、減損による減価償却費減もあり増収・増益

2022年12月期 通期業績

1. 業績のポイントと主要項目



2022年12月期 通期業績

* うち、為替差影響は+1,682億円、連結範囲変更の影響は▲198億円

(億円)

		FY2021 通期	FY2022 通期	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)減少要因
売上高		16,974	20,359	+ 3,385*	(+) ライフサイエンス製品、フッ素関連製品の出荷増加 (+) 建築用ガラス、クロールアルカリ製品、自動車用ガラスの販売価格上昇 (+) 円安
営業利益		2,062	1,839	▲ 222	上記に加え、 (-) 欧州を中心に原燃材料価格高騰 (-) ディスプレイの大幅な需要減
税引前利益		2,100	585	▲ 1,515	上記に加え、 (+) 土地売却益 (+) 関係会社売却益 (-) 前年同期に北米建築用ガラス事業譲渡益を計上 (-) ディスプレイ事業、プリント基板材料事業、ロシア事業、欧州自動車用ガラス事業で減損損失を計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益		1,238	▲ 32	▲ 1,270	
為替レート (期中平均)	1USD	JPY 109.80	JPY 131.43		
	1EUR	JPY 129.89	JPY 138.04		
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	69.23	96.34		

2022年 その他費用内訳

	(億円)	
	FY2022	備考
その他収益	272	
その他費用	▲1,539	
為替差損	▲40	
固定資産除却損	▲86	
減損損失	▲1,284	ディスプレイ、プリント基板材料、ロシア建築用ガラス・自動車用ガラス、欧州自動車用ガラス
事業構造改善費用	▲96	欧州ガラス事業の構造改革など
その他	▲31	

	(億円)	
	金額	回収可能性変更の要因
ディスプレイ	737	TV・PC販売の伸び悩み、円安・原燃材料高騰によるコスト増
プリント基板材料	322	米中貿易摩擦及び中国における新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた需要減
ロシアにおける建築用・自動車用ガラス	建築用：99 自動車用：37	ロシア・ウクライナ情勢の長期化に伴う経済環境の悪化
欧州自動車用ガラス（ロシアを除く）	67	ロシア・ウクライナ情勢を契機とした自動車需要の低迷

セグメント別業績 前年比較

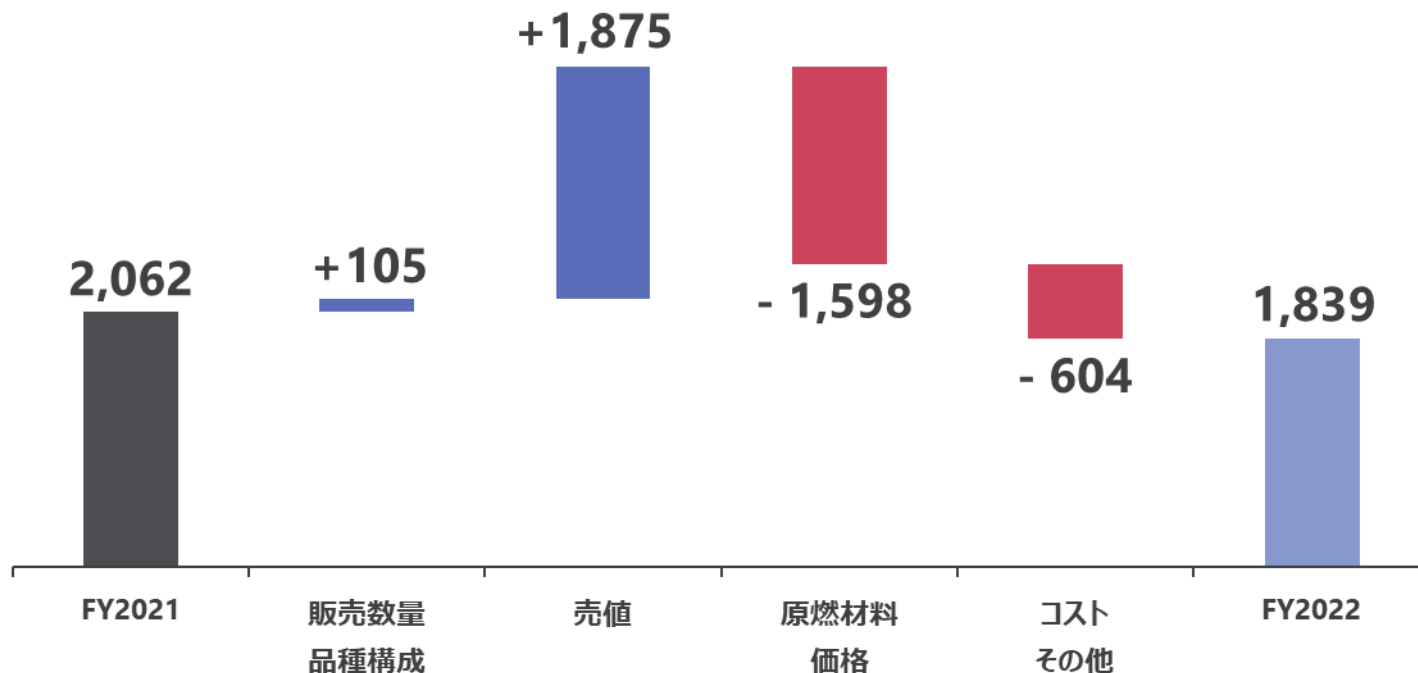
(億円)

	FY2021 通期 (a)		FY2022 通期 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 ガラス	7,343	273	9,015	229	+ 1,673	▲ 44
 電子	3,050	368	3,072	147	+ 22	▲ 221
 化学品	6,308	1,388	7,952	1,429	+ 1,644	+ 42
 セラミックス・その他	794	35	866	37	+ 72	+ 2
 消去	▲ 520	▲ 2	▲ 547	▲ 3	▲ 26	▲ 1
連結合計	16,974	2,062	20,359	1,839	+ 3,385	▲ 222

営業利益増減要因分析(FY2022 vs. FY2021)

前年比 222億円減益

(億円)



連結財政状態計算書

	2021/12	2022/12	増減 (億円)	
現金及び現金同等物	1,958	2,097	+ 139	
棚卸資産	3,301	4,365	+ 1,064	
有形固定資産・無形資産及びのれん	15,067	15,148	+ 81	● 為替影響 +1,018億円 減損損失影響 ▲1,284億円
その他	6,334	6,530	+ 196	
資産合計	26,660	28,140	+ 1,480	● 為替影響 +1,752億円
有利子負債	6,032	6,502	+ 470	
その他	5,815	5,782	▲ 33	
負債の部	11,847	12,284	+ 438	
親会社の所有者に帰属する持分合計	13,142	13,903	+ 761	
非支配持分	1,672	1,953	+ 281	
資本の部	14,814	15,856	+ 1,042	● 為替影響 +1,210億円
負債及び資本合計	26,660	28,140	+ 1,480	
D/E比率	0.41	0.41		

連結キャッシュフロー計算書

通期	FY2021	FY2022	(億円)
税引前利益	2,100	585	
減価償却費及び償却費	1,668	1,857	
運転資金増減	▲ 307	▲ 854	
その他	▲ 194	584	
営業活動によるCF	3,267	2,171	
投資活動によるCF	▲ 1,238	▲ 1,453	
フリーキャッシュフロー	2,029	718	
有利子負債増減	▲ 2,158	17	
支払配当	▲ 310	▲ 522	
その他	▲ 54	▲ 277	
財務活動によるCF	▲ 2,523	▲ 782	
現金等に係る換算差額	90	203	
現金等の増加額	▲ 403	139	

設備投資・減価償却費等

通期	FY2021	FY2022	(億円)
設備投資額	2,165	2,366	
ガラス	509	473	
電子	696	800	
化学品	942	1,080	
セラミックス・その他	22	14	
消去	▲ 3	▲ 2	
減価償却費	1,668	1,857	
ガラス	546	565	
電子	603	684	
化学品	500	590	
セラミックス・その他	20	19	
消去	▲ 1	▲ 1	
研究開発費	494	523	

主な設備投資案件

- 自動車用製造窯修繕（ガラス）
- ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 電子部材製造設備増強（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- フッ素関連製品能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（化学品） など

主な減価償却費増加要因

- 電子部材製造設備増強（電子）
- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（化学品） など

2. セグメント別・地域別の状況



通期	FY2021	FY2022	(億円) 増減
売上高	7,343	9,015	+ 1,673 *
建築用ガラス	3,811	4,827	+ 1,016
自動車用ガラス	3,511	4,176	+ 665
(セグメント間)	20	12	
営業利益	273	229	▲ 44

* うち、為替差影響は+793億円、連結範囲変更の影響は▲132億円



建築用ガラス

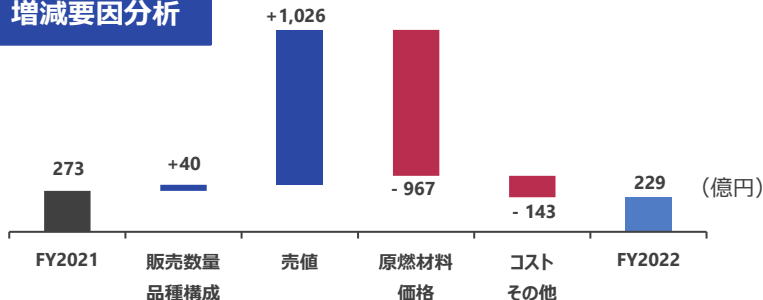
- 欧州を中心とした全ての地域で販売価格が上昇し、北米事業売却による減収影響をカバー
- 欧州の天然ガス価格高騰の影響はエネルギーサーチャージにより吸収も、その他原燃材料高の影響を受ける



自動車用ガラス

- 半導体を含む部品供給不足の影響の緩和を受け出荷が増加するも、コロナ禍前のレベルには届かず
- 欧州を中心に価格改定効果が発現するも原燃材料高の影響を受ける

営業利益 増減要因分析



営業利益 構成比 共通費配賦前



営業利益
(億円)

通期	FY2021	FY2022	(億円) 増減
売上高	3,050	3,072	+ 22*
ディスプレイ	1,821	1,554	▲ 267
電子部材	1,210	1,495	+ 285
(セグメント間)	19	23	
営業利益	368	147	▲ 221

* うち、為替差影響は+143億円、連結範囲変更の影響は▲58億円



ディスプレイ

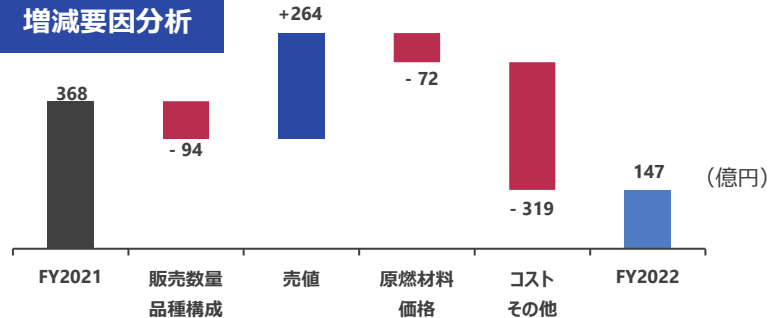
- 液晶用ガラス基板は、需要が期後半から想定以上に減少し、出荷が減少。
- 液晶用ガラス基板は、為替および原燃材料高の影響により製造原価が上昇したことに加え、新規設備立ち上げにより減価償却費が増加
- ディスプレイ用特殊ガラスの出荷が減少



電子部材

- オプトエレクトロニクス用部材および半導体関連製品は、出荷が堅調に推移したことに加え、為替の影響などにより増収

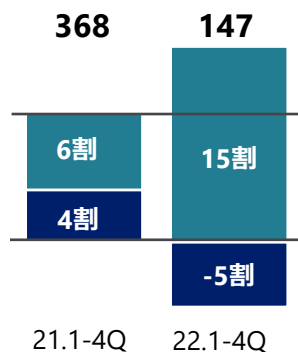
営業利益 増減要因分析



営業利益 構成比 共通費配賦前

電子部材

ディスプレイ



営業利益
(億円)

通期	FY2021	FY2022	増減 (億円)
売上高	6,308	7,952	+ 1,644*
クロールアルカリ・ウレタン	3,904	4,898	+ 994
フッ素・スペシャリティ	1,239	1,561	+ 322
ライフサイエンス	1,152	1,472	+ 320
(セグメント間)	13	20	
営業利益	1,388	1,429	+ 42

* うち、為替差影響は+723億円、連結範囲変更の影響は▲9億円



クロールアルカリ・ウレタン

- 苛性ソーダ等の市況が堅調に推移したことに加え、円安の影響もあり増収



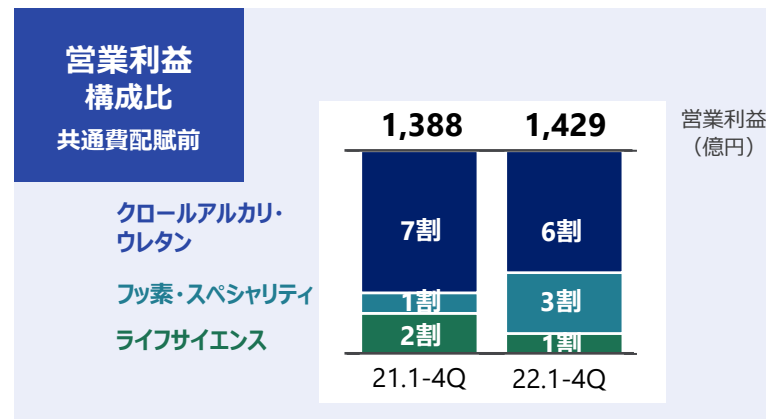
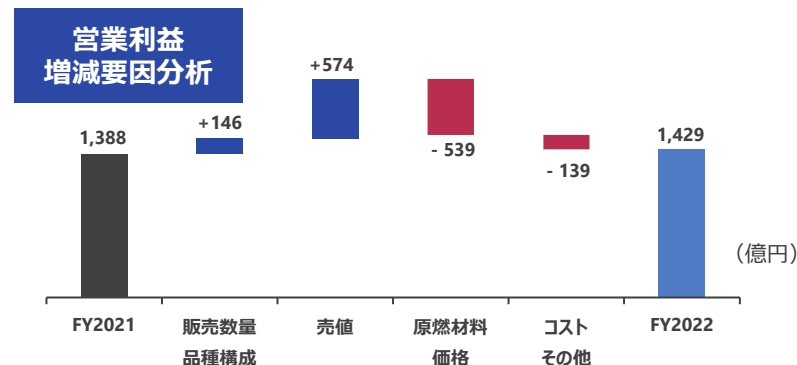
フッ素・スペシャリティ

- 半導体関連向けを中心にフッ素関連製品の出荷が大きく増加



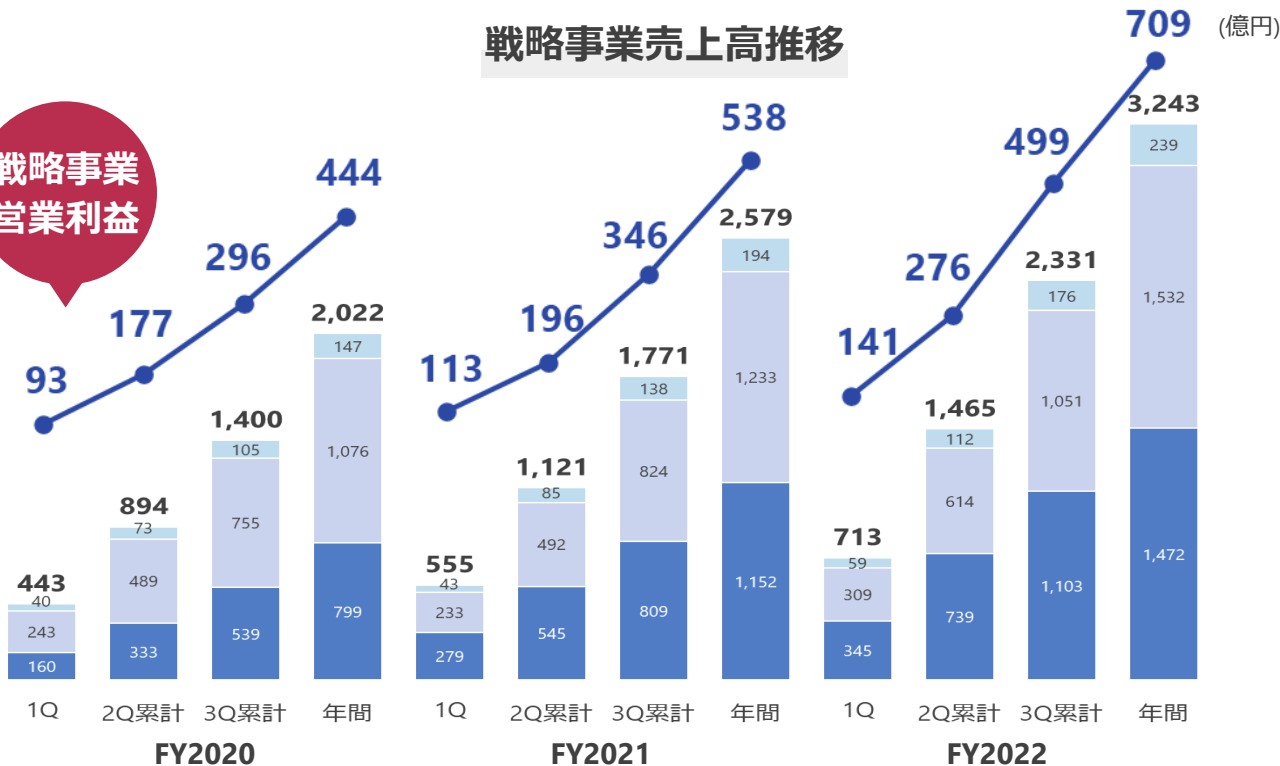
ライフサイエンス

- 合成医薬品CDMO・バイオ医薬品CDMOの受託売上が増加
- 能力増強に伴い先行費用が増加



■ 順調に業績拡大

戦略事業
営業利益



主な製品・事業

モビリティ

- 車載ディスプレイ用カバーガラス
- モビリティ新規部材
(含5G通信)

エレクトロニクス

- 半導体関連部材
- オプトエレクトロニクス用部材
- 次世代高速通信用部材
- エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO
- バイオ医薬品CDMO

セグメント別 ROCE・EBITDA

		営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産		(億円)
		2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	
	ガラス	273	229	819	794	4.6%	3.6%	6,000	6,300	
	(ご参考) 建築ガラス	—	327	—	566	—	10.9%	—	3,000	
	(ご参考) オートモーティブ	—	▲ 98	—	227	—	▲3.0%	—	3,300	
	電子	368	147	971	830	5.9%	2.6%	6,250	5,650	
	化学品	1,388	1,429	1,887	2,020	21.5%	18.1%	6,450	7,900	
	(ご参考) 化学品	—	1,261	—	1,736	—	23.3%	—	5,400	
	(ご参考) ライフサイエンス	—	169	—	284	—	6.7%	—	2,500	
	セラミックス・その他	35	37	55	56	14.0%	18.4%	250	200	
	消去ほか	▲ 2	▲ 3	▲ 3	▲ 4	—	—	—	—	
合計		2,062	1,839	3,729	3,696	10.9%	9.2%	18,950	20,050	

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2023年通期業績の見通し

セグメント変更について

変更前



変更後



分割

変更なし

分割

*各セグメント内の製品またはマーケットごとの売上高の内訳区分

**クロールアルカリ・ウレタンから名称変更

***フッ素・スペシャリティから名称変更

****従来ライフサイエンスに含まれていたファインシリカ事業はパフォーマンスケミカルズに移動

2023年 通期業績見通し

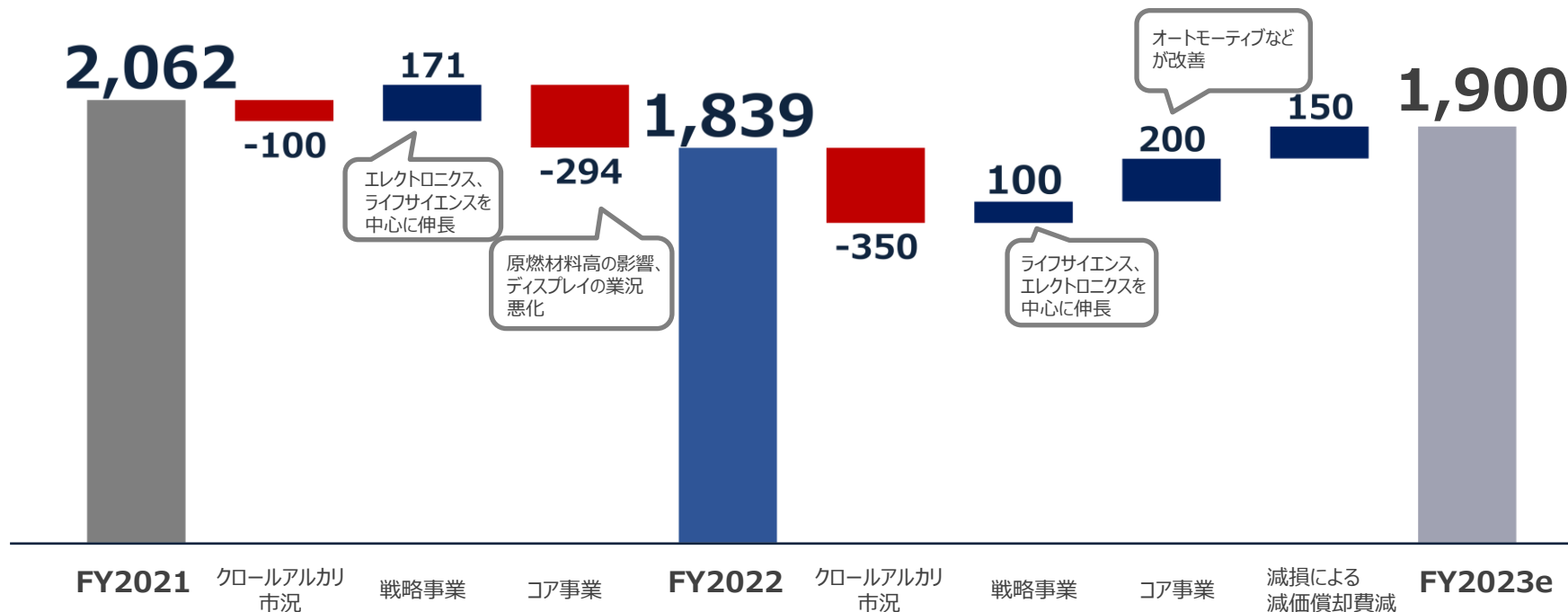
- エssenシャルケミカルズ*が昨年比で減益となる見込みだが、オートモーティブ*をはじめとする他のコア事業や戦略事業の伸長に加え、減損損失による減価償却費減もあり増収・増益

		FY2022	FY2023 予想	(億円)
売上高		20,359	21,500	
	(上期)	9,783	10,300	
営業利益		1,839	1,900	
	(上期)	1,153	750	
税引前利益		585	1,470	
親会社の所有者に帰属する 当期純利益		▲ 32	870	
1株当たり配当 (円)		210	210	
営業利益率		9.0%	8.8%	
ROE		-	6.3% *	
為替レート (期中平均)	JPY/USD	131.4	125.0	
	JPY/EUR	138.0	135.0	
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	96.3	85.0	
エチレン(CFR SEA)	USD/MT	1,054	1,000	

* FY2023予想のROEは、2022年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

2023年 営業利益見通し

FY2021~2023営業利益推移（億円）



セグメント別 売上高/営業利益見通し

(億円)

	FY2022 (a)		FY2023予想 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
 建築ガラス	4,837	327	5,000	360	+ 163	+ 33
 オートモーティブ	4,178	▲ 98	4,700	80	+ 522	+ 178
 電子	3,072	147	3,400	380	+ 328	+ 233
 化学品	6,604	1,261	6,500	850	▲ 104	▲ 411
 ライフサイエンス	1,418	169	1,600	210	+ 182	+ 41
 セラミックス・その他	866	37	800	20	▲ 66	▲ 17
 消去	▲ 616	▲ 3	▲ 500	0	+ 116	+ 3
連結合計	20,359	1,839	21,500	1,900	+ 1,141	+ 61

2023年 見通し



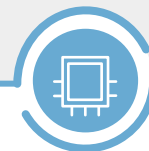
建築ガラス

- 欧州ではインフレや景気減速などの懸念があるものの、エネルギー削減のための高断熱ガラスへの置き換え需要が出荷を支える
- 日本・アジアでは、高断熱・遮熱ガラス需要拡大などにより出荷が堅調に推移する



オートモーティブ

- 半導体を中心とした部品供給不足の影響の緩和により自動車生産台数が緩やかに回復し、当社出荷も増加
- 従来より取り組んできた価格政策の更なる効果発現を見込む



電子

ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板は構造改革施策の推進に加え、需要の回復と減価償却費負担の減少により収益が改善
- ディスプレイ用特殊ガラスは主要なお客様向けからの受注が拡大し、出荷が増加

電子部材

- オプトエレクトロニクス用部材はスマートフォン市場の減速により踊り場となるが、半導体関連部材はEUV露光用フォトリソマスクブランクスを中心に堅調に推移
- プリント基板材料は通信インフラや車載向け需要の拡大などにより出荷が増加

2023年 見通し



化学品

エッセンシャルケミカルズ

- 昨年末をボトムに市況は緩やかな回復を見込むが、年間では前年水準を下回る

パフォーマンスケミカルズ

- 半導体関連、輸送機器分野を中心にフッ素関連製品の需要が堅調に推移し、出荷が増加



ライフサイエンス

- 合成医農薬CDMO・バイオ医薬品CDMOの受託件数が増加
- 能力増強に伴い、費用が先行して発生する見通し

設備投資額・減価償却費・研究開発費

年間	FY2022	FY2023e	(億円)
設備投資額	2,366	3,000	
建築ガラス	175	250	
オートモーティブ	298	270	
電子	800	930	
化学品	649	950	
ライフサイエンス	431	580	
セラミックス・その他	14	20	
消去	▲ 2	0	
減価償却費	1,857	1,880	
建築ガラス	239	240	
オートモーティブ	325	330	
電子	684	620	
化学品	475	520	
ライフサイエンス	115	150	
セラミックス・その他	19	20	
消去	▲ 1	0	
研究開発費	523	580	

主な設備投資案件

- ディスプレイ中国G11投資（電子）
- 電子部材関連製造設備増強（電子）
- 東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- バイオ医薬品能力増強（ライフサイエンス）

など

付属資料

営業利益に対するインパクト

為替



**1%円高で
5億円*減益**

*JPYに対して全ての通貨が
同じ割合で動いた場合の
影響額

ドバイ原油



**1バレルあたり
1ドル上昇した場合
4.2億円*減益**

*ヘッジ影響除く

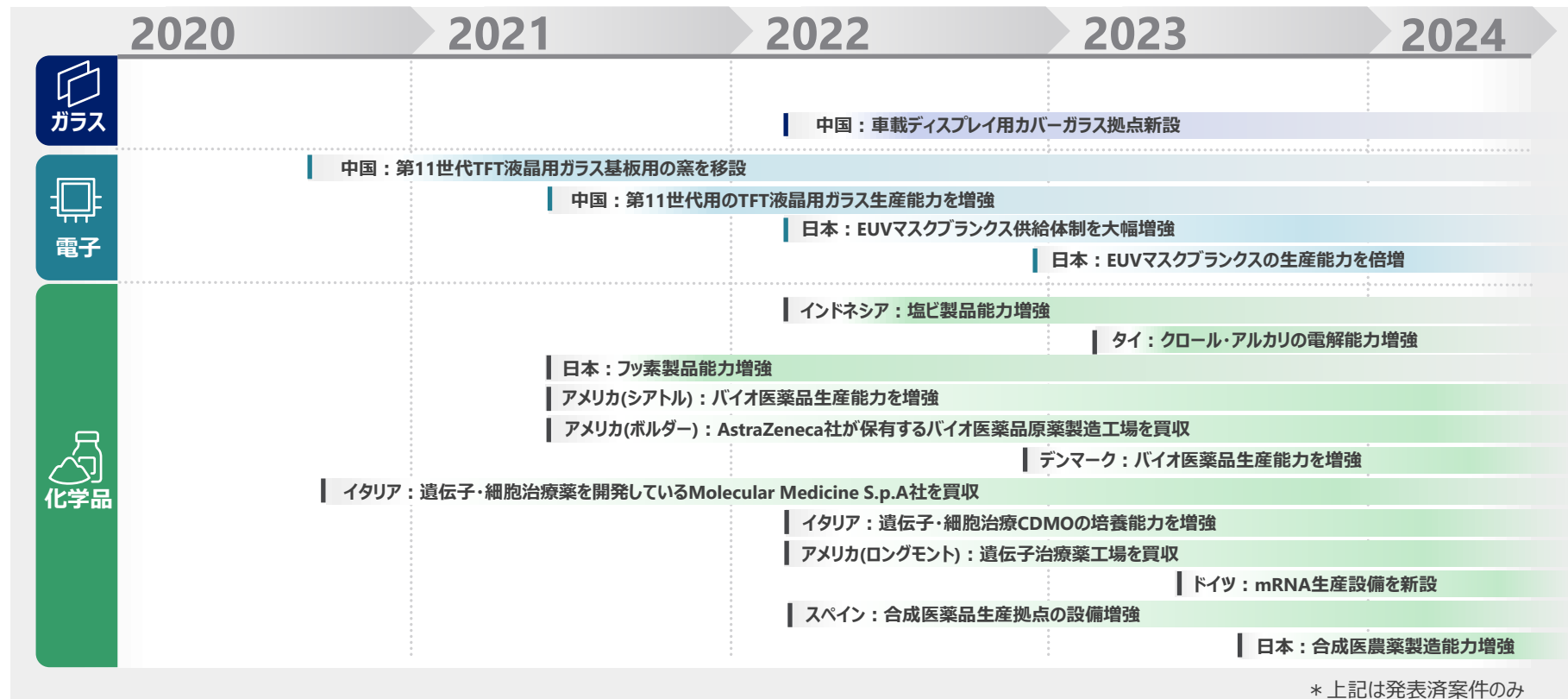
化学品市況



- ① 苛性ソーダ**
国際市況が\$1下がると\$1Mの減益
- ② 塩ビスプレッド**
\$1下がると\$1.2Mの減益*

*塩ビスプレッド：塩ビ市況－
(エチレン市況×0.5)

AGC plus-2023 主要な投資案件



カーボン・ネットゼロ目標（2050年）

2021年に中長期のGHG削減目標を策定し、着実に推進



2020年

2050年に“カーボン・ネットゼロ” (Scope 1+2)

2030年



2050年

2030年 マイルストーン（2019年比）

Scope 1

GHG排出量
(Scope 1+2排出量)

30%削減

Scope 2

GHG排出量売上高原単位
(Scope 1+2排出量／売上高)

50%削減

Scope 3

GHG排出量
(Scope 3排出量のうち、カテゴリ1、10、11、12の合計)

30%削減

事業ポートフォリオ変革
戦略事業の拡大により、
排出量削減を上回るペースで
炭素効率を改善

DXの加速による競争力の強化

コーポレートトランスフォーメーション第2章の梃子として、単独のプロセスの効率化(改善)に加え、サプライチェーンをつないでお客様や社会に価値提供する取り組み(革新)に進化

技術・技能

<技術>

最新デジタル技術、
デジタルツール など



<技能>

IE、VA/VE、QC、
データサイエンス など



AGCグループの
競争優位性を高め、
経済的、社会的価値
を創出

人材育成

上級
データサイエンスによる自部門の課題解決

基礎・応用
データサイエンス手法の習得
プログラミング言語の習得

入門レベル
データサイエンスの一般教養

2020年実績

39名

2022年実績

68名

2025年目標

100名

素材開発や、生産・販売・物流などの
業務知識に加え、高度なデータ解析スキル
を有する「二刀流人材」を育成

1,735名

3,500名

(グローバル)

5,000名

体制・風土

<取り組みレベル>

経産省DX推進指標に基づく自己点検
2020年 2.1 → 22年 3.5
(先行企業レベル)

<体制強化>

2023年 1月
デジタル・イノベーション推進部を新設
(改善と革新を加速)

<組織風土改革>

チャレンジする意欲、
組織や国・地域を越えて学び合う文化
を醸成



DX銘柄2022
Digital Transformation

社会的価値と経済的価値を同時に実現し成長

■ ポートフォリオ変革とサステナビリティ経営の推進により実現

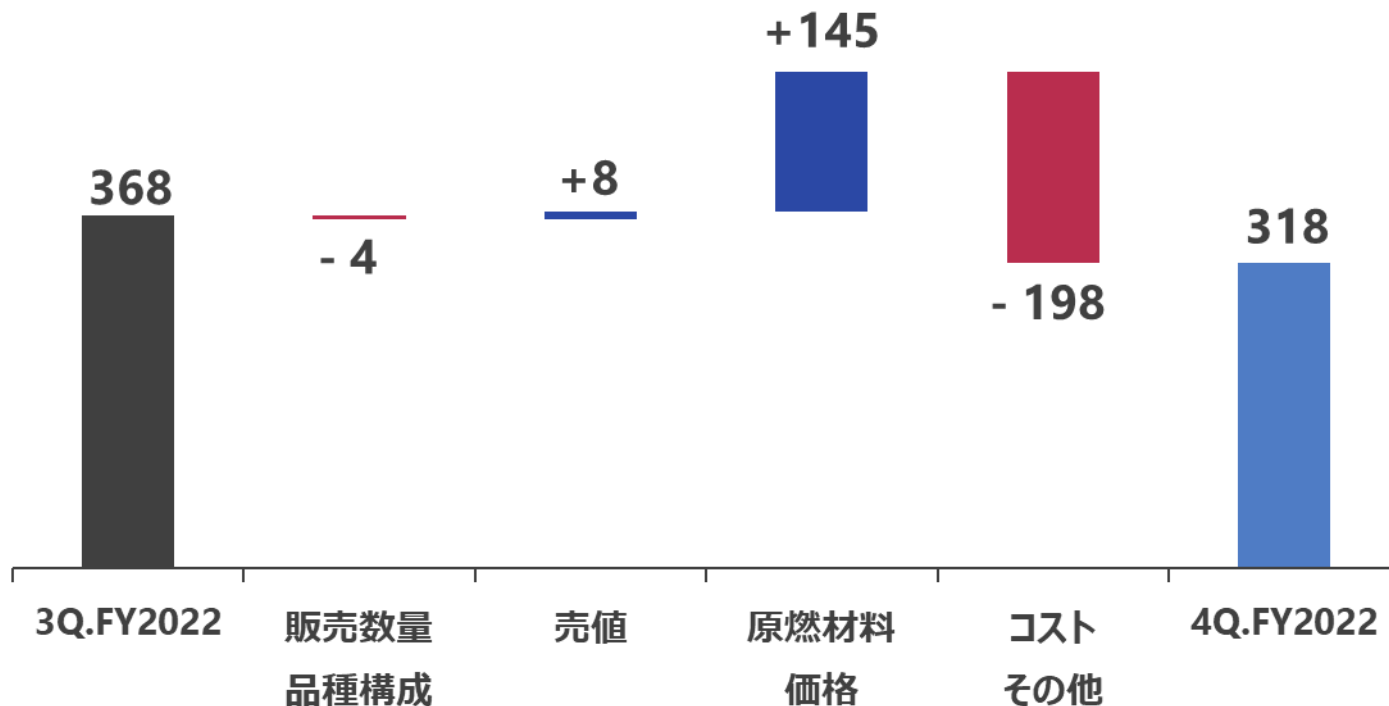
		2022年(実績)	2023年	2025年	2030年	2050年	
経済的価値	営業利益	1,839億円	1,900億円	2,500億円	3,000億円以上		
	戦略事業営業利益	709億円	800億円	1,200億円	1,600億円以上		
	EBITDA*	3,696億円	3,780億円	4,800億円			
	ROE	-	6.3%	安定的に10%以上			
	D/E比率	0.41	0.5以下				
社会的価値	GHG関連				GHG排出量 30%削減**	GHG排出量 売上高原単位 50%削減	カーボン・ネットゼロ を目指す (Scope1+2)
	非財務資本	グループガバナンス、人財、研究開発の強化					
創出したい社会的価値							
■ 安心・健康な暮らしの実現への貢献  ■ 安全・快適な都市インフラの実現への貢献  ■ 持続可能な地球環境の実現への貢献  ■ 公正・安全な働く場の創出への貢献  ■ 健全・安心な社会の維持への貢献 							

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 **Scope1 + 2排出量、Scope3排出量（カテゴリ1,10,11,12）における削減目標

営業利益増減要因分析(4Q.FY2022 vs. 3Q.FY2022)

前四半期比 49億円減益

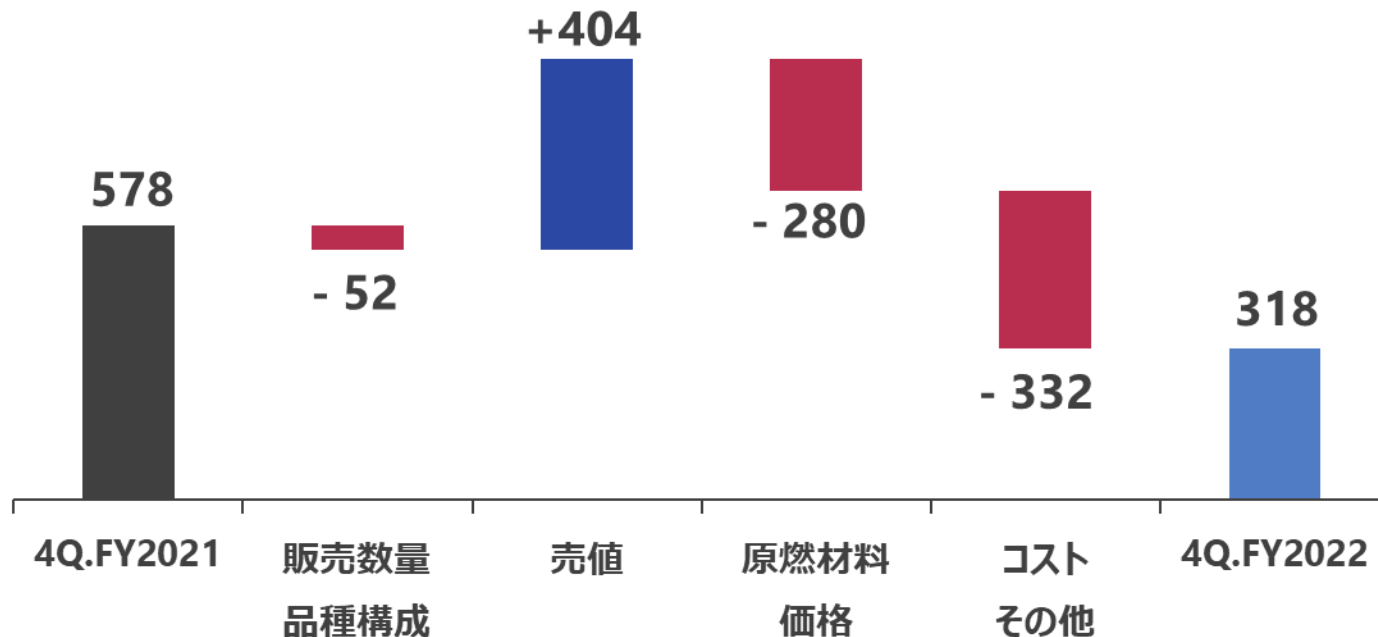
(億円)



営業利益増減要因分析(4Q.FY2022 vs. 4Q.FY2021)

前年同期比 260億円減益

(億円)



地域別業績 前年比較

通期	FY2021	FY2022	増減 (億円)
売上高	16,974	20,359	+ 3,385
日本・アジア	11,244	13,027	+ 1,783
アメリカ	1,750	2,078	+ 327
ヨーロッパ	3,980	5,254	+ 1,274
営業利益	2,062	1,839	▲ 222
日本・アジア	1,986	1,871	▲ 115
アメリカ	100	72	▲ 28
ヨーロッパ	375	314	▲ 62
地域共通費用	▲ 399	▲ 417	▲ 18

為替影響

+1,682億円

連結範囲変更の影響

▲198億円

売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 ガラス	4Q.FY2022	986	322	1,196	4	2,508
	4Q.FY2021	829	220	845	3	1,896
建築用ガラス	4Q.FY2022	405	99	826	-	1,330
	4Q.FY2021	347	61	604	-	1,011
自動車ガラス	4Q.FY2022	581	222	370	-	1,174
	4Q.FY2021	482	159	241	-	881
 電子	4Q.FY2022	725	81	2	6	814
	4Q.FY2021	774	84	4	5	868
 化学品	4Q.FY2022	1,539	152	264	5	1,961
	4Q.FY2021	1,436	130	231	3	1,800
 セラミックス・その他	4Q.FY2022	103	-	-	115	218
	4Q.FY2021	86	-	-	146	233
 消去	4Q.FY2022	-	-	-	▲ 131	▲ 131
	4Q.FY2021	-	-	-	▲ 158	▲ 158
合計	4Q.FY2022	3,354	555	1,462	-	5,370
	4Q.FY2021	3,126	434	1,079	-	4,639

売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

		日本・アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計
 ガラス	FY2022	3,601	1,170	4,233	12	9,015
	FY2021	3,132	1,046	3,144	20	7,343
建築用ガラス	FY2022	1,469	327	3,031	-	4,827
	FY2021	1,202	439	2,170	-	3,811
自動車ガラス	FY2022	2,132	843	1,202	-	4,176
	FY2021	1,930	607	975	-	3,511
 電子	FY2022	2,771	267	11	23	3,072
	FY2021	2,743	275	12	19	3,050
 化学品	FY2022	6,281	640	1,010	20	7,952
	FY2021	5,043	429	823	13	6,308
 セラミックス・その他	FY2022	374	-	-	492	866
	FY2021	326	-	-	468	794
 消去	FY2022	-	-	-	▲ 547	▲ 547
	FY2021	-	-	-	▲ 520	▲ 520
合計	FY2022	13,027	2,078	5,254	-	20,359
	FY2021	11,244	1,750	3,980	-	16,974

ガラス	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	(億円)
売上高	1,851	1,806	1,912	1,729	1,896	1,976	2,172	2,358	2,508	
建築用ガラス	901	891	991	916	1,011	1,038	1,214	1,244	1,330	
自動車用ガラス	943	908	915	808	881	935	956	1,111	1,174	
(セグメント間)	7	7	6	5	3	3	2	2	4	
営業利益	53	95	106	51	21	40	74	23	92	
電子	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	
売上高	792	695	690	797	868	760	722	777	814	
ディスプレイ	458	461	429	474	457	450	420	346	338	
電子部材	316	230	257	318	405	304	296	425	470	
(セグメント間)	19	4	5	5	5	5	6	6	6	
営業利益	106	87	55	103	123	80	12	31	24	
化学品	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22	4Q.22	
売上高	1,296	1,373	1,508	1,626	1,800	1,922	2,090	1,980	1,961	
クロールアルカリ・ウレタン	755	822	940	1,030	1,112	1,217	1,298	1,199	1,184	
フッ素・スペシャリティ	278	269	299	329	343	356	393	410	403	
ライフサイエンス	260	279	265	265	343	345	393	365	369	
(セグメント間)	3	3	4	3	3	4	5	6	5	
営業利益	180	255	340	365	427	452	474	303	201	

数量・価格動向

前年同四半期比 (YoY)

				2021				2022			
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	+1割	+1割強	-1桁半ば	横ばい	+1割	+1割強	+1桁半ば	-1割弱
			価格	-1桁半ば	+数%	+1割	+1割強	+2割弱	+約2割	+2割強	+2割
		欧州	数量	微増	+約3割	+1割弱	+3割弱	+10%台半ば	微減	-10%台半ば	-2割強
			価格	+1割弱	+4割弱	+4割弱	+4割弱	+4割強	+約6割	+8割弱	+約5割
	自動車用生産台数 (IHS Markit 12/15データより)	日本	数量	-4%	+55%	-23%	-17%	-13%	-14%	+25%	+7%
		北米	数量	-4%	+132%	-26%	-14%	-2%	+12%	+23%	+8%
		欧州・ロシア	数量	+1%	+84%	-32%	-23%	-18%	-4%	+22%	+2%
電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積	+17%	+10%	-3%	+4%	+22%	+6%	-12%	-5%

*Source : Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 3Q22 Pivot

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		18/12	19/12	20/12	21/12	22/12
売上高	百万円	1,522,904	1,518,039	1,412,306	1,697,383	2,035,874
営業利益	百万円	120,555	101,624	75,780	206,168	183,942
営業利益率	%	7.9	6.7	5.4	12.1	9.0
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	89,593	44,434	32,715	123,840	△ 3,152
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	7.7	3.9	2.9	10.2	△ 0.2
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	5.4	4.4	3.1	7.9	6.7
自己資本比率	%	51	50	44	49	49
D / E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.43	0.47	0.63	0.41	0.41
営業CF / 有利子負債	倍	0.35	0.32	0.29	0.54	0.33
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	399.51	200.85	147.84	559.11	△ 14.22
一株当たり配当金	円	115	120	120	210	210
EBITDA *4	百万円	259,425	231,857	208,459	383,226	253,209
為替レート (期中平均)	円/ドル	110.43	109.05	106.82	109.80	131.43
	円/ユーロ	130.42	122.07	121.81	129.89	138.04

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均) *2 営業利益/総資産 (期中平均) *3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。 *4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください  https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

2022年 主要発表事項

 発表日	 内容
1月25日	EUV露光用フォトマスクブランクス生産能力を倍増
4月6日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月6日	タイでクロール・アルカリ事業の能力増強を決定
5月10日	Solvay Soda Ash Joint VentureおよびSolvay Soda Ash Extension Joint Venture の全株式の譲渡を決定
5月13日	地球温暖化係数の低い次世代冷媒AMOLEA®1123の新組成を開発
5月18日	AGC Biologics社、米国における遺伝子・細胞治療CDMOの製造能力を増強
6月8日	「DX銘柄2022」に選定
6月10日	Scope 3 排出量の削減目標を設定
7月26日	AGC Glass Europe社、Lowカーボンガラスの発売を発表
10月3日	国内バイオCDMO 製造能力拡大の検討を本格化
10月11日	インドネシア・タイで生産する建築用ガラスの環境製品宣言（EPD）を取得
10月17日	AGCグループ、インドネシア（アサヒマス・ケミカル社）で再エネ由来の電力購入契約を締結
11月2日	ライフサイエンスカンパニーを新設
12月13日	CDPから「気候変動」の分野で最高評価「Aリスト」に選定
12月23日	艾杰旭特種玻璃（大連）有限公司の異動（持分譲渡）に関するお知らせ
1月12日	SBTi から温室効果ガス削減目標「WB2℃」の認定を取得

AGCグループが創出したい社会的価値

■ 社会的課題の解決に向け、事業活動を通じた5つの社会的価値を創出

安全・快適な都市インフラ の実現への貢献



建築用Low-Eガラス



自動車用UVカットガラス



塩化ビニル樹脂

安心・健康な暮らしの 実現への貢献



医薬品（中間体・原体）



農薬（中間体・原体）



農業温室ハウス用フィルム

健全・安心な社会の 維持への貢献



地域社会との関係



周辺環境への配慮



サプライチェーンの人権

公正・安全な働く場の 創出への貢献



職場環境の安全

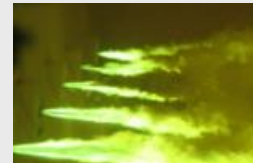


多様性



従業員エンゲージメント

持続可能な地球環境の 実現への貢献



気候変動問題への対応



資源の有効利用

サステナビリティ “製品・技術”を通じて社会的価値を創出

重要機会

AGCグループの 主な素材・ソリューション

社会的価値

気候変動問題への対応

- 建築用ガラス ■ 自動車用赤外線カットガラス
- バイオマスボイラー用炉材 ■ グリーン冷媒 等

資源の有効利用

- 燃料電池用部材
- リサイクル原料使用製品（ガラス・耐火物等）

持続可能な地球環境の実現への貢献



社会インフラの整備

- 建築用ガラス ■ 苛性ソーダ
- 次亜塩素酸ソーダ ■ 重曹 ■ 塩ビ 等

安全・快適な モビリティの実現

- 自動車用ガラスアンテナ
- 車載センシング・レーダー用部材 ■ HUD部材 等

情報化・IoT社会の構築

- 建物窓取付アンテナ ■ 半導体製造用部材
- ディスプレイ用ガラス ■ 高速通信用部材 等

安全・快適な都市インフラの実現への貢献



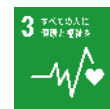
食糧問題への対処

- 農薬原体・中間体
- 農業温室ハウス用フィルム 等

健康・長寿社会への対応

- 医薬品原体・中間体 ■ 高速通信用部材
- 水処理用高機能膜 等

安心・健康な暮らしの実現への貢献



サステナビリティ “健全な企業活動”を通じて社会的価値を創出

重要リスク

AGCグループの 企業活動

社会的価値

気候変動問題への対応

- 継続的な省エネ対策実施
- GHG排出量を低減する生産技術・設備開発 等

資源の有効利用

- 再生原材料や再生資材の活用
- 埋立て処分の削減 等

社会・環境に配慮した サプライチェーン

- 人権尊重・環境保護を重視したサプライヤー管理 等

地域社会との関係・ 環境配慮

- 水使用量削減 ■ 生物多様性保全
- 環境事故撲滅 ■ 地域のファン作り 等

公正・平等な雇用と 職場の安全確保

- 従業員エンゲージメントの向上
- 重篤災害・休業災害の発生防止 等

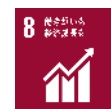
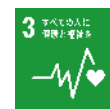
持続可能な地球環境の実現への貢献



健全・安心な社会の維持への貢献

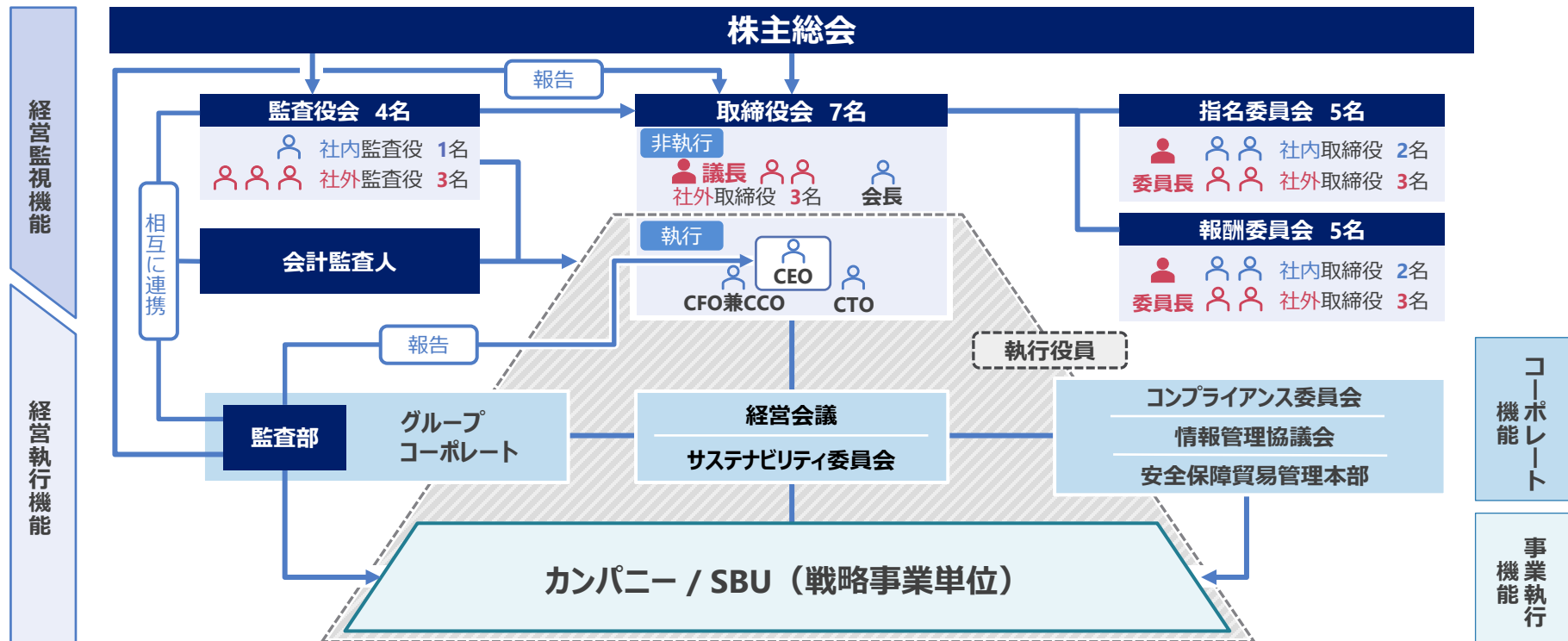


公正・安全な働く場の創出への貢献



当社のコーポレートガバナンス体制の概要図

👤 : 社内出身の取締役又は監査役 👤👤 : 独立性が確保された社外取締役又は社外監査役





FTSE4Good Index Series に選定



FTSE Blossom Japan Index に選定



CDP Climate Change A 評価



「第5回日経スマートワーク経営調査」4星 の格付けを獲得



女性活躍推進に優れた企業を選定する**「なでしこ銘柄」**に昨年選定



「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定



EcoVadisサプライヤー評価 で **最高ランク** を取得

「PLATINUM」：鹿島工場、AGC Pharma Chemicals Europe社
他国内外複数拠点で高評価

Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022 に選定



「DX銘柄2022」に選定

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。



Your Dreams, Our Challenge